

## 令和2年度第1回 犬山市総合教育会議 会議録

日時：令和2年5月26日（火）午前10時

場所：犬山市役所 4階 401会議室

### ◆出席者

市長 山田拓郎

教育長 滝 誠

教育委員 教育長職務代理者 高木浩行 委員 紀藤統一※ 委員 田中秀佳※  
委員 奥村康祐※ 委員 小倉志保 委員 堀 美鈴※  
(※はオンラインによる出席者)

アドバイザー 県立犬山南高等学校 校長 森也寸司

### 事務局 【経営部】

鈴木経営部長

企画広報課

井出企画広報課長

西村課長補佐

小枝統括主査

### 【教育部】

中村教育部長

矢野子ども・子育て監

記録者 企画広報課 西村課長補佐

傍聴者 0名

---

### ◆次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議題  
(1) 新型コロナウイルス感染症について  
(2) 文化財の保存・活用について
- 4 自由討議
- 5 その他
- 6 閉会

---

### ◆会議要旨

#### 議題(1)について

##### 【主な意見】

- ・今後、緊急事態が起こったときに、どう意思決定をするのか整理しておく必要がある。
  - ・今年度は全国学力調査がないと聞いているが、代替りの学力調査（外部テスト等）があると良い。
- 現場の声も踏まえて、教育委員会で議論し判断していただきたい。

- ・飲まず食わずの児童・生徒がいないような取組があるとありがたい。
- ・今後もこのようなことがあるかもしれないと考えながら、保育者のやるべきことを再確認して、保育者集団をまとめていただきたい。
- ・先生たちの清掃作業等の負担が軽くなるような配慮ができると良い。

## 議題(2)について

### 【主な意見】

- ・過去の文化を大切に保存していくことが大事。心豊かな犬山市民を育てる、心豊かになる手段を考えていくべき。
- ・幼稚園、保育園、小学校で文化財に触れる機会をたくさん作っていただけると良い。
- ・今回の自粛が、自分の住んでいるところを見つめなおす機会になると良い。
- ・歴史上のものと自分の地域との繋がり、文化財を身近に感じられる何かがあると良い。
- ・犬山市にはたくさん文化財があるので、学校教育にも繋げられるようにしていただきたい。
- ・有形のものについては、設計図や資料等を確実に残しておくことが大前提。無形のものについては、知らないうちに消えてしまったということがないように、なくなる対策をとっていくべきではないか。
- ・教育現場で先生が小ネタを話たり、子どもでも時代背景が分かるものができたら良い。子どもたちに「これを守りたい」と思わせる導きが必要ではないか。
- ・見せ方は大事。ターゲットを絞って見せ方を考えていかないといけない。
- ・子どもたちが体験できる機会を増やしていけると良い。
- ・保存にお金を使うだけでなく、いかに活用を図っていくかを考えていかないといけない。

## 自由討議

### 【主な意見】

#### ○熱中症対策について

- ・相当の規模での対応になるため、スクールバスは考えていない。
- ・子どもたちの健康、安全を第一に考えて対応を考えていきたい。

#### ○GIGAスクールについて（1人1台PC導入について）

- ・子どもたちの生活の質、社会との繋がりを構築していくためのコンテンツを端末に盛り込んでどうか。
- ・コンテンツの活用について、教育委員の皆さんでも議論していただいて、可能なものは取り入れさせていただきたい。

## ◆会議録

<p>司 会 (井出企画広報課長)</p>	<p>ただ今から、令和2年度第1回犬山市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>本日は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインを取り入れた会議となっています。使用しているZOOMというアプリの関係で、およそ40分毎に一旦中断になります。画面の向こう側の皆様には再接続していただかなければいけません。お手間をおかけしますが、ご協力をお願いします。</p> <p>初めての試みとなりますので、不手際があるかもしれませんが、よろしく願いいたします。</p> <p>本会議は、犬山市総合教育会議運営要綱第4条に基づき、公開とさせていただきますが、本日は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、傍聴人の受付は行</p>
---------------------------	---

	<p>っておりません。また、「YouTube」でのライブ中継は行っておりませんが、会議の様子は録画しており、後日、配信する予定となっています。</p> <p>資料は、事前に送付した次第、名簿、会場レイアウトのみとなっています。</p> <p>それでは、はじめに山田市長からごあいさつを申し上げます。</p>
山田市長	皆さん、おはようございます。
出席者	おはようございます。
山田市長	<p>新型コロナウイルスの影響で2月末からずっと、教育委員会所管の様々な事業、あるいは施設等々、いろいろな影響があったかと思います。昨日、国の緊急事態宣言が全国で解除され、愛知県もおそらく本日午前中に解除という方向だと聞いております。もちろん、ウイルスが消えたわけではないと思いますので、引き続き予防に対する取組を継続しながら、進めていかないといけないと思っております。そういう中で今回、オンライン会議という試みを進めさせていただきました。今後のいろいろな経験値という意味では、こういった試みを経験しておくことは、私は意義深いことだと思っております。できれば顔を見て、直接意見交換するのが理想ではありますが、こういう形で進めさせていただくのも非常に画期的なことだと思っております。これからもいろいろな情報技術を活用しながら議論できればと思っております。今日はそういったことも含めて、よろしく願いいたしまして、私からのあいさつとさせていただきますと思います。</p>
司 会	続きまして、滝教育長、お願いします。
滝教育長	皆さん、おはようございます。
出席者	おはようございます。
滝教育長	<p>3月2日（月）から、ほぼ3か月にわたる臨時休校がとけまして、今週月曜日から分散登校が、来週6月1日（月）から通常の教育活動が再開することとなりました。その間、子どもたちに学習の遅れを出さないように、どの学校もプリント学習に取り組みさせて、再開後の授業を円滑に進められるように工夫をしていただきました。中でも全学年において、教科書会社が提供します学習コンテンツが視聴できるように犬山市教育委員会専用のHPを立ち上げたこと、そして、中3の生徒を対象に、4中学校の先生が共同で授業動画を作成、配信し、子どもたちの学習支援を行ってきたこと。これも取り掛かりは中3の生徒を対象でしたけれども、学校と家庭をオンラインで繋いで、朝の会、帰りの会、そして授業ができるような体制の整備を進めてきました。先行き不透明な中、そして、目まぐるしく変化をする中ではありましたが、一気にオンライン化を加速させる取組を進めていくことができたのではないかと思います。今後はこの中3を対象とした取組を徐々に全小中学校の児童生徒に拡大させて、再びやってくるかもしれない不測の事態に備えてまいりたいというふうに考えています。緊急事態宣言が解除されて、臨時休業が解けたからと言って、コロナが終息したわけではありません。手洗いうがい、手指消毒を勧め、よく言われる3密の状態を作らないようにして、子どもたちの健康、安全に最大限に配慮しながら、教育活動を進めていけたらと思っております。</p> <p>また、本日は犬山南高校の森也寸司校長先生にもオブザーバーとしてご出席していただいております。ありがとうございます。市内の小中学校現場が今後またお世話になると思います。どうぞよろしく願いいたします。以上です。</p>
司 会	<p>今、滝教育長からお話がありましたが、本日は犬山南高校の森校長先生に来ていただいております。よろしく願いいたします。犬山高校の祖父江校長先生につきましては、公務のご都合で欠席とのご連絡をいただいております。</p> <p>それでは、議事に移らせていただきます。これ以降は、「犬山市総合教育会議運</p>

	<p>「要綱」第3条に基づき、山田市長に議事進行をお願いします。</p>
山田市長	<p>それでは、議題の1件目「新型コロナウイルス感染症について」ということで、今、教育長から学校の取組について、（ご発言が）ありましたけれども、教育委員会の所管事項全般—学校教育以外のことも含めて、今回の新型コロナウイルス感染症の様々な状況を踏まえて、皆さんがいろいろお感じになられたり、ご意見だったり、いろいろあろうかと思えます。ですので、現時点での状況で、いろいろ皆さんに総括していただいて、「こんなことが必要ではないか」、「ここをもっとこうすべきではないか」とか、そういったご意見があれば、ここで意見交換をさせていただいて、今後活かしていけたらと思っています。そういった趣旨でこの議題について意見交換をしていきたいと思っています。</p> <p>それでは、何かご発言がありましたら、挙手をお願いしたいと思います。</p> <p>では紀藤委員。</p>
紀藤委員 [オンライン]	<p>委員の間ではメールのやりとりで、奥村委員から教育委員会の情報をいただきました。それを見ながら、このような緊急事態のときにはどのように対応すれば一番いいのか。我々教育委員が集まって「いつから臨時休校にしよう」とか、そういう話し合いをすべきなのか、教育長あるいは学校設置者である市長の判断で行っていくべきなのか。委員の間にも話題があって、委員だけが取り残されるという状況があって、前回4月の定例教育委員会はコロナウイルスの関係で、中止ということになりましたけれど、教育長とお話して、「資料は何もなくていいから、情報だけまずみんなで共有しようじゃないか」ということで、教育長の判断でみんなが集まってやったことに意味があったと思っています。</p> <p>教育長がすべて判断していくのがベストなのか、我々委員に聞いて相談していくのがベストなのか。自問自答しながら考えていくと、こういう緊急事態は、権限を集めるということを考えておかないと、第2波、第3波のときにも同じような状態が続くのではないかと思います。委員の皆さんに意見を聞いていただきたいと思っています。そんなメールが委員の間であったということだけお知らせします。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。紀藤委員の問題提起もありましたが、そのことに関してでも良いですし、それ以外のことで良いですので、コロナに関しての総括であったり、あるいはご意見—こんなことやったらどうかとか、何かあれば。</p> <p>はい、田中委員。</p>
田中委員 [オンライン]	<p>紀藤委員から先ほどあった件で、今後、このような事態が起きては欲しくありませんが、こういう緊急事態だからこそ、どのようなプロセス—例えば今回の場合は、総理大臣の休校要請—法的根拠などについてはいろいろ意見が出ていますけれど、学校の管理者としての地方自治体がどういう意思決定をしたのかという総括と、今後、このようなことが起こった場合にどうするか、この辺を整理していく必要があるのではないかと思います。これに関しては法令をいろいろ整理していました。本来であれば、その整理した資料を提供しないと、口頭でお話しするのは難しいかもしれませんが、今回の学校の休校措置自体は学校の管理者—地方公共団体が行うということですが、今回どのようなプロセス—最終的には市長が決定して発表するというものになっているわけですが、その意思決定過程についてはおおそ教育委員会が関わるパターンと、教育長が代理で教育委員会の総意を決定するパターン、あとは総合教育会議で意思決定する必要があったのかもしれない。このようなパターンがあると考えています。</p> <p>この3つのパターンの一つ目で教育委員会が臨時、定例の委員会によって今回のあらゆる休業に関連して措置をとっていくかということ、法的には地方教育行政法と</p>

	<p>犬山市の教育委員会基本条例がありまして、ここでは教育委員会が関知するものとして、施設等及びその他設備の整備に関することであるとか、職員、児童、生徒及び幼児の保健、安全、厚生、福利に関すること、環境衛生等が地方教育行政では教育委員会の所管となっています。あと学校給食に関すること等があつて、これらに加えて犬山市の教育委員会基本条例においては、「教育に関する事務の管理執行については、付議事件として審議して採決」というふうになっています。今回、そのプロセスを経なかった。ではその場合、今回の意思決定過程は、教育委員会を経ずにやった場合、法的にはどのような説明が成り立つのか。教育長が今回の件については、教育委員会の総意として意思決定を一任したというようなことを想定するのであれば、地方教育行政については「権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる」とあるのですが、この場合も、ただし、教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針については委任することができないとあるので、今回の休業措置に関する様々な決定というのが基本的な方針ではない、ということが条件。またこれは同じような規定が、犬山市教育委員会教育長事務委任規則第1条にも同じようにあるので、これをどのように整理するかということ。それから、3点目の総合教育会議において協議するような事項であるかもしれないということも指摘をさせていただきたいと思います。これについては総合教育会議、1条の4に書いてありますが、「児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置」については総合教育会議にかかるというもの。これはそもそも成り立ちとして、いじめ問題が想定されていて、このような規定があるわけですが、ただし、今回も緊急な場合に講ずべき措置に該当するかもしれない、ということで、今後総合教育会議で話をするのか、あるいは教育委員会で話をするのか。今回はどうである、今後どうするかは、この場であったり、定例会で整理していけたらと考えています。</p> <p>ごめんなさい、分かりにくくて申し訳ないですけど。</p>
山田市長	<p>他にご意見ございますか。</p> <p>はい、奥村委員。</p>
奥村委員 [オンライン]	<p>緊急事態宣言が出たというのが、夕方に何度も何度も日を追うごとに内容が変わったりして、先ほどの田中委員がおっしゃられたような対応が、日を追うごとにどんどん変わっていきました。ですから、職員の皆さん—事務局の皆さんが、こういった会議を設けるのも時間がなかったと考えられるのですが、私はせめて情報だけでもくださいということで、事務局から連絡をいただいて、委員の皆さんに情報を共有するという形をとらせていただきました。先ほど田中委員がおっしゃられたように、今回の状態—もう少し緊急事態について、新たなちゃんとした形を一度考えて整理しておくことが必要なのかなと思いました。</p> <p>あと、学力について、私の娘がちょうど受験中です。いろいろ政府からは次年度まで学力を、残った分を持ち越すという部分で、不安な部分の懸念—今年の受験生はどうかということ、前回の5月の定例教のときには、9月までには学力を戻すと教育長がおっしゃられていたように思うのですが、実際に子どもたちがどれくらい他の市町村と比べて、全国学力調査も今年度はないという状況ですので、何かその代わりにの学力調査的なもの、他市町との平均というか、そういったものが、こういうときにこそ必要になってくるのではないかと、というのが少し心配です。あと、どれくらいの学力なのか、指針を図るためにも外部テストないし、そのような</p>

	ものを設けていただけると、受験期に関して何かしら指針があると良いのかなと思いました。
山田市長	はい。他に意見はございますか。 はい、では堀委員。
堀委員 [オンライン]	いろいろバタバタしている中で、国、県からの情報があって、もちろん市からでもすけれど、保護者もとても不安で、心配されていて、私は教育委員という役職をいただいているので、聞かれる人もとても多く、私が話す話さないは別にして、市としての情報をもっとあると良かったかなという気がします。 それからもう一つ。今回いろいろなところが自粛されましたが、保育園や児童クラブは行われました。もちろんそうしないといけないと思います。保育者がいろいろなところへ、幼稚園の人が児童クラブへ行ったりとか、いろいろ工夫をされたというのは、さぞ、それを取り仕切る人が大変だったろうと思います。これからもこのようなことがあるかもしれないということを考えながら、保育者の動きというか、自分のやるべきことをもう一度再確認して、保育者集団をしっかりまとめていっていただきたいなと思いました。
山田市長	はい。ありがとうございます。 オンラインの皆さんは一通り発言をされましたが、こちらの皆さんはどうですか。一言ずつお願いします。 では高木委員。
高木委員	今回、学校が休校になって、実際に3か月休みにになりました。その始まりが2月27日夜の、総理のいかにも唐突な発表から、2月28日だけ学校に行って、翌3月2日から一斉に……。そのあまりにも唐突な中で、やはり一番大変な思いをしたのは子どもであり、先生であり、家庭であったと思います。もう少しそういうことを匂わせてもらっていたら、準備もできていたのではないかなと思います。当時はまさかそれが3か月も続くななんて思っていなかったというのが私の感想です。4月になってもそれがずっと延長されて、2か月間続き、合計3か月。この前の定例教でもお話ししましたが、子どもの中には、要保護、準要保護の子どもがいる一例え、給食が唯一の栄養源になっているような子がいるわけで、そういう子たちのことをずっと心配していました。夏休みは1年に1回、1ヶ月あるわけですが、それが3か月、日々の食事を苦勞しているそういう子たちがいるということを苦しんでいましたが、定例教でそういう子たちのための救済というか、児童手当以外に準要保護ですかね、市独自として渡されるのは。
山田市長	就学援助かな。対象世帯の。
高木委員	そうです。それがあったのが良かったなと思います。ただ、それが支給されるのが6月になってからということだったので、もっと機敏にすぐに対応できるようなものを常に準備しておいてもらって。本当に3か月、飲まず食わずのような児童生徒がいないような取組をできたらありがたいなと思っています。いろいろありますが、とりあえず。
山田市長	はい。小倉委員。
小倉委員	昨日、羽黒小学校にお邪魔をさせていただいて、子どもが帰った後、先生たちが清掃作業をされているのを拝見させていただきました。最初に塩素を薄めたもので拭いて、乾いたらそれを乾拭きするというので、一生懸命先生たちが蛇口や教室も磨いてくださっていました。アルコールだったら、シュシュッとやればそれで済むのですが、「アルコールが持続的に、長期的に手に入るとは限らないから、手に入る方法でこれを選びました」と教頭先生にお伺いをしました。本当に作業が

	<p>大変で、先生たちがこれを毎日毎日続けていくのかなど。その辺がものすごく心配で、もっと手軽にというか、先生がもう少し楽にできるような配慮ができれば良いなど。次亜塩素酸が良いのか、中性洗剤を薄めたものでも良いとネットで言われていますけれど、菌が消滅する、どのくらい除菌できるのか、先生たちの作業と、もちろんお金と比較して、先生たちに負担にならないように、負担が行きすぎないようにというところを考えました。実際、幼稚園、保育園、児童館とか、今もずっと継続されて、消毒されて子どもたちを受け入れていると思うのですが、その辺が今はどうされているのかを知りたいなと思いました。</p> <p>実際、子どもがもらってくるもの一宿題とか、親として見ていると、「4月6日になったら学校があるだろう」というふうだったので、「少し休みを長くします。自分で振り返りをしなさい」というのがスタンスだったんだと思います。先生たちは長引かないと思っていたので、準備をされなくて、4月になってやっぱり延長しますということだったので、とりあえずのプリントをもらってきたのですが、それが今までのカリキュラムに合っているものかといったら、合っていないものもあったり、家庭で親が教えるしかないというものがあったり。学校によって予習学習が入っているところ、復習学習のところ、枚数だったり、量だったり、全然バラバラでしたが、その話を4月にさせていただいて、統一をされてたくさんの宿題をGWが明けてもらってきたのですが、「どこまでをどうして欲しい」という課題、「親がいないとできない」、「支援がないとできないもの」だったり、考えるよりも写す作業が多くて、本当に苦戦して日々戦いだったのですが、先生たちもそういうのに慣れていないので、どういうふうに課題を出していいのかとか、今回は良い勉強になったのではないかなと思いました。</p> <p>先生たちもすごく努力をされているというのは分かっていますので、これから先、2波、3波が来たときに、先生たちもどうしたらいいかというのが、今回良い学習になったのではないかなと思いました。</p>
山田市長	<p>はい。一通り意見が出ました。この会はあくまでも市長と教育委員との意見交換会ですので、皆さんが出されたご指摘については私が答えさせていただきます。かなり多岐にわたってご意見が出ていますので、繋ぎ直しということで、いったんここで区切らせていただきます。</p>
<p>&lt; 休 憩 &gt;</p>	
山田市長	<p>いただいたご意見の中で重要なポイントがいくつかあったと思います。</p> <p>今回の新型コロナ、非常事態だと思うのですが、今後も災害だとか非常時は当然起きることですので、教育委員会は所管する事項、それに関連してどういう権限で、だれが対応していくのか。教育委員会の中のいろんな意思疎通もあると思いますが、基本的には田中先生がおっしゃったように、公的な位置付けというものがあります。今回は、新型コロナウイルスの対策本部で意思決定をしています。意思決定にあたっては、事前に教育長とすり合わせをしながらやっていますので、決めたことを教育委員会に押し付けるということよりも、どちらかという教育長とやり取りをしながら、一定の方向を見出して、対策本部で決めるという形だったのかなと思います。ただ、事前に教育長と意見交換をするときには、お互い意見がすべて一致していることばかりではありませんので、議論して方向を決めています。</p> <p>それから、教育委員の皆さんとの情報共有は非常に重要です。これは3月の対策本部だったと思いますが、「基本的には新型コロナウイルスがあるからといって、いろんな会議を止めることのないように」ということは言ったつもりです。つまり、4月の定例教がなかったという話がありましたが、私の気持ちからするとやっ</p>

ていただきました。こういうオンラインでもできましたし、3月の時点でも「オンラインでやる方法を考えろ」という指示を出していますので、あとは教育委員会の中の話です。場合によってはこれは皆さんへの問題提起ですが、定例教だけではなくて、臨時で緊急の教育委員会をやってもいい訳です。これは皆さんの中で、災害とかこういった緊急事態の場合は、予め決めてできるものではないの、臨機応変に、そういったことを教育長とやり取りをしていただきながら、必要に応じてやっていただくことが大事だと思います。

もう一つは、あまりプロセスにこだわりすぎると、逆に適切なタイミングに適切な判断をできないことが場合によってはあるので、これは私も政治的な責任を背負っていますので、私の権限も含めて、そのような突発的な場合は、こちらの判断に委ねていただくという場面も出てくるかもしれませんので、その点をご理解いただきたいと思います。

あと、いろんな教育委員会の基本条例だったり、総合教育会議であったり、そういったところの位置付けをもう一度整理していく必要があるかなとは思っています。今回の紀藤委員、田中委員から、非常時の対応というご指摘がありましたが、そういったところを、今後に向けてきちっと整理していく必要はあると思っていますので、これはまた教育委員会と調整はしたいと思っていますのでお願いします。

それから、奥村委員がおっしゃった中で、学力の状況。これは現場の意見も聞き取りたいと思っているのですが、もし必要性があるのであれば、予算措置はきちっとさせていただきますので、それは一度、教育委員会でご議論いただいて、現場の声も踏まえてご判断いただければと思います。

堀委員がおっしゃった、市民の不安。いろいろ状況が見えないこともあって、いろいろな不安というのが、私のところにもいろいろな声が届くものですから、重要なところだと思っています。教育委員会の中の情報共有もさることながら、大事なことは市民の皆さん、保護者の皆さんとの情報共有ということなので、場合によっては結論を伝えるという情報共有だけではなくて、やはりプロセスを伝えていく。今、こういう状態にあるんだということを、細目に伝えていくということが不安の解消になると思います。「今、こういうことを検討しているんだな」とか、「こんなことが議題になっているんだな」とか、結論を伝えるだけが情報共有ではないので、ちゃんとそのプロセスを保護者の皆さんと共有できるように、これは教育委員会に是非その徹底をお願いしたいと思っています。ただ、まったくやっていない訳ではなくて、4月末には、「だいたいいつぐらいに休業の延長をするかどうかの判断をしますよ」という情報も流したりはしています。保護者の皆さんの不安はよく分かりますので、今後もその辺は徹底したいと思います。

それから、高木委員がおっしゃった点。やはり生活困窮と言いますか、子どもたちの食事というのは、我々も心配するところで、機敏な対応が我々もそこは非常に重要だと思っています。実はこの就学援助の世帯への食事代の提供、実際は3月に、対策本部で私から提案させていただきました。これは決して責任を転嫁する訳ではないのですが、当時、どちらかという私から提案したのですが、当時の担当部長の中に慎重な意見があったので、これは私の判断で時期を見送りました。結果的にはこのタイミングになったので、もう少し早くやっても良かったのかなというのは、私の反省です。ただ、そういった議論は3月の時点で持ち上げていたということをご承知おきいただきたいと思います。ご指摘は非常によく分かる場所ですので、今後は適切なタイミングで、適切な判断ができるように考えていきたいと思っています。



	<p>小倉委員の話で、予防とか宿題のこととかもありましたが、予防に関しては今後も学校現場で、どういう方法が有効なのか。次亜塩素酸の話もありましたが、依然として医学的というか科学的にこれが絶対だということがまだ断定されていませんので、こういうときになるといろんな立場の人たちが、いろんなこと「これが効く」だとか「これをやるといい」ということが出ますが、やはり科学的根拠、医学的な側面、そういったこともきちんと裏付けをとりながら、正しい対応をとっていくと。ただし、代替的にいろんな暫定措置を講じていくこともありますし、もう一つ気になるのが構造上の問題です。これは完璧にはいかないかもしれませんが、例えば今後学校を新しく作っていくときには、水道は蛇口で良いのか、センサー式のものが良いのかとか。ただ、財源との兼ね合いもありますので、総合的に判断しないといけません、構造的な問題も併せて考えていくということも大事かもしれません。</p> <p>以上、皆さんがおっしゃったご指摘の中で、ポイントをかいつまんで私から回答させていただきましたが、皆さんから再度、全般にわたって、学校教育ばかりではないものですから、全般にわたって何か皆さんから再度ご意見があれば。よろしいですか。何か。</p> <p>はい、では特に無いようですので、議題1に関して森先生、何かお感じになられたことはありますでしょうか。</p>
森校長	<p>犬山南高校の森と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>この4月から、犬山南高校の校長として赴任してまいりました。それまでは県教育委員会の教職員課というところで教員の人事をやっていました。ようやく先生方や生徒と触れ合えるとワクワクしながら年度末を迎え、4月を迎えたというわけではなく、私共も2月末から、何を自分が考えているか分からないようなバタバタの中で各学校に、特に教員の服務についての通知を連発するというような状態で生活をしておりました。4月を迎えたところ、生徒たちもいない、先生方も2/3を在宅にするというローテーションを組んでいましたので、職員室もガラガラですし、相談したいときに先生たちは全然いないというところで頭を痛めてきたというのが正直なところです。多くの委員さんからご指摘がありましたが、様々な対策は現段階で「良い」と判断できるものはやるだけやるしかないということで、職員も意思を統一して動いています。高校生に対して、「手洗いしなさい」とか、「うがいをしなさい」と言うのも少しどうかとも思うのですが、やはり全国的な状況とうちの生徒も相変わらず、なんとなく気が緩んでいるような、そういう素振りも見られますので、高校生であろうがなかろうが、指導すべきこときちんと指導することで、対応をしている最中です。</p> <p>いずれにしても、コロナのためにとってきた対応がコロナのためだけの対応だと非常にむなしい。これだけ時間をかけて頭を痛めて、知恵を出し合ってきたことが、これで終わってしまうのではなくて、永続性のある視点から学校行事等を検討してくださいと先生方にもお願いをしてきたところです。先生方の働き方の改革という点も踏まえて、実はコロナに向けて打ってきた対応というのが様々な方向性を示唆しているのではないかと校長としては考えています。以上です。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは議題2「文化財の保存・活用について」ということで議題に挙げさせていただきました。どうしても総合教育会議の議題が、学校教育であったり、子ども未来課の所管事項に偏る傾向があるものですから、教育委員会は「歴史まちづくり課」や「文化スポーツ課」も所管していますので、幅広くテーマを設けながら、意</p>

	<p>見交換をしていきたいと思っています。新型コロナの影響で、これまでは建物だとか、お城だとか、史料館だとかは閉鎖しておりましたが、今日、この後に対策本部をやって、開館に向けた意思決定をしていくわけですが、それはそれとして、犬山の文化財。文化財と言っても非常に多岐にわたります。お城や史料館だけではなくて、鶺鴒いもあるし、石上げ祭や大縣神社とか、それぞれの地区にある小さなお祭り、伝統行事、古墳。文化財も多岐にわたりますので、これも単に保存というだけではなくて、これからはその資源を活用していくのは大事ですので、この件について、皆さんと何か意見交換できればと思っていますので、お願いしたいと思えます。そういう趣旨で意見交換をしていきたいと思えますので、何か皆さんから文化財の保存・活用について、思うところ、ご意見等、あればいただきたいと思えますがいかがでしょうか。どうですか、なかなか出にくいですかね。</p> <p>はい、紀藤委員。</p>
紀藤委員 [オンライン]	<p>文化財についてはよく分からないところがあるのですが、今回の新型コロナウイルスで、演劇とかがなくなったとか。いろんな無形の文化財もあると思えますが、私たちが生活していく中で生まれたものが文化だと思えますので、過去の文化を大切に保存していくことが非常に大事なことだと思います。心の支えになっている場合もあります。犬山城に落雷があって、屋根瓦が傷むということがありました。そのときにも、「そんなにお金がかかるのか」という意見を聞いたのですけれども、犬山市の人にとっては犬山城が心の支えじゃないかなと思うので、我々は守って次の時代に繋いでいく必要があるのではないかと。そういう意味では、今回のコロナの関係、先ほどの話で、すべての演劇とかが中止になったりしていく。このまま衰退するのではないかと心配をしたりします。そんなことがないように、我々はもっと活用方法を考えて、今日、対策本部があるということでしたので、犬山のいろんな施設とか無形文化財、祭りなんかも含めて、どうこれから進んでいくといいのかを、みんなで考えていくべきではないかと思えます。それがなくなったことによって生活に不足があるかといったらそうではなくて、やはり心豊かな犬山市民を育てる。犬山市民だけではないですけど、やはりそういうものが日本人の心の中にあるので、非常に大事にしていきたいと思っています。ですから、こういうことがあっても、続けられる方法を考えて、是非、保存・活用をしていければ良いかなと思えます。とりとめのない意見なのですけれども、みんながどこへも行かない、そんな状況ではなくて、もう少しこんなところに心のよりどころがあるのだよという、心豊かになる手段を考えていくべきだと思います。すみません、まとまりのない意見ですが。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>堀委員。</p>
堀委員 [オンライン]	<p>私が小学生の頃は、郷土史という時間があって、郷土のいろんな話とか文化財の話聞く機会がありました。それから、給食のときに校長先生が民話を話してくれました。その民話をもとに地域に出て行って、いろんな文化財に親しむということが私の幼い頃にありました。せっかくなので、私もこの冊子を見させていただいて、本当にたくさん良いところがある。それが幼稚園、保育園、小学校でこういうことに触れる機会をたくさん作っていただけると良いなど。それこそ郷土愛と、自分の自己愛というか自己肯定感というものに繋がるような気がします。</p> <p>それから、今はよその県に行ってはいけないということになっています。せっかく良い機会なので、犬山を—自分の住んでいるところをもう一度見つめ直す良い機会になればと思えます。以上です。</p>

山田市長	<p>ありがとうございます。 他によろしいですか？では奥村委員。</p>
奥村委員 [オンライン]	<p>犬山の文化財の冊子を見させていただきまして、思っていた以上にたくさん文化財がありますが、この内容が犬山市のHPにはどこにもないです。犬山市観光協会のHPにはありますが、犬山市のHPにはなくて、そういうのが少し寂しいなと思います。</p> <p>もう2つ。この文化財が犬山市の全体の地図で、どこに何があるということが、ここの中に少しあるのですが、犬山市全体としての捉え方というものがありませぬ。犬山市の全体の地図で、例えば地図をクリックすると文化財が出てくるとか、そういうものがあると、非常に、自分の地区にはこういう文化財があるということが非常に良く見えて、こんなに近くにあるなら歩いて行ってみようとか、そういうことも見えると良いなと思っていました。</p> <p>それからもう一つ、文化財ですが、これって一つ一つ文化財としてついていくのですが、文化というものは歴史上の時代背景というものが全部あると思います。その時代背景、犬山市の歴史として古い順番、犬山城、羽黒城、楽田城とか。どれが古くてとか、歴史のつながりとか。羽黒であれば梶原景時公の七人衆がいて、自分の家の先祖はそこにあるとか。そのような地域のカルチャーとか、その地域に住んでいる人が文化財の結びつきとか、犬山の城下町であれば13町内が車山を引く担い手ということがあって、非常に結束力が強く、非常に所属意識とか、そういったものが非常に強く感じられるのですが、その他の地域ではそういったものが非常に薄れてきています。今一度そういったものを、歴史上のものと自分の地域に繋がりがあるというものを広めていくと、守っていかないといけない。身近に感じられるような何かができるとう良いなと感じました。</p> <p>例えば、犬山市独自のウィキペディアみたいなのをネットに上げて、専門の人がネット上に書き込んでいくと、一つの大きな犬山市のデータとしてでき上がっていくのではないかなと思いました。以上です。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。 では田中委員お願いします。</p>
田中委員 [オンライン]	<p>はい。学校教育の関係に関連してしまうので申し訳ないのですが、文化財の関係で。県外出身なので、犬山とか小牧周辺の愛知県の歴史がすごくうらやましくて、本学一名古屋経済大学も内久保砦とって、戦国時代に豊臣秀吉が砦を構えたところで、私も歴史がすごく好きなので、建物から小牧城が見えて、秀吉はここから誰かを見ていたんだろうとか、いろんなところで想像を膨らませることができます。羽黒あたりでもおそらくそうです。そういうような、この場所ですごい歴史一大河ドラマになるような歴史があったということ、子どもたちがたくさん知ることができる環境づくりを、例えば学校の先生がそれをしていただけたらなあと思います。この冊子も先生方が持っていらっしゃれば良いなと。学校にも配布するとか、教室に置いておくとかしておくとう良いかなと。自分の小学校のころを思い出すと地域のお年寄りにインタビューして、この場所で昔こういうことがあったりということを調べて、文集みたいなものを作ったり。私も小学校というのは一番記憶に残っています。古墳もそうですし、本当にたくさん文化遺産があるので、学校教育にも繋がられるようにしていただけたらなあと思いました。</p>
山田市長	<p>はい。ありがとうございます。 では高木委員。</p>

高木委員	<p>文化財の保存・活用は、主張が多岐にわたるといことは重々承知しています。いろんなところの意見があるのだろうなということも分かります。余談になってしまいますが、県議が「愛知県には国宝の建造物が3つあって、その2つは犬山にあります」ということを言っていて、2月ぐらいだったかな、「サザエさんのオープニングに犬山城が出ていますから」ということをしきりにおっしゃっていたことを思い出しますけれど、大きく分けると有形、無形になってくるのかなと思います。その価値観も、例えば「出雲大社は国宝でこれが良い」という人と、「伊勢神宮ー20年毎に式年遷宮する、ああいうものが良い」という人もいます。たまたま自分の住んでいる町内にはお祭りの車山がありますので、その修復をする際には、今、言ったようなことも含めて、大変いろんな議論ー喧々諤々な議論をしたということがあります。例えば修復するにも「何千万もかけて修復するのであれば、本当にピカピカにするのが良い」という人がいれば、一方で「ある程度趣のある修復にした方が良い」とかがあったりするので、ピカピカではなく、ピカの状態で直そうかという感じで。例えば彫刻の上に金箔を貼りますけれど、その上に少しぼかしの漆を塗ってコーティングするといった修復をやりました。例えば犬山城なんかは白壁できれいにしていますけれど、「あれがやっぱりきれいだ」という人もたくさんいるだろうし、一方で、「残せる部材の所は残せるだけ残しましょう」という考え方もある訳で、その辺の兼ね合いはすごく難しいのだろうなということはずっと思っています。国宝の仏像がピカピカになってしまったら、「ん？」と思うだろうし、でも創建当時はそうであったのかもしれない。</p> <p>何が言いたいかというと、いろんな文化財、有形のものについてやっぱり火災とか、災害とかでなくなってしまうのは何ともなりませんので、それに伴う設計図や資料なりを確実に残しておくということがまず大前提であるのかなと思います。</p> <p>それから今度、無形の部分で言うと、去年も教育委員さんに春休みとかに会所場を一緒に見に行こうということで、一緒に見学させてもらいました。犬山祭は能管と篠笛と両方ありますけれど、多分見られた人は、「結構同じようなものではないかな」というのが感想だと思います。わざとと同じようなものを聞いていただきましたので。やっぱり微妙にあれは違って、市長も余坂の車山をひいてみえるので、おらの車山が一番だというのは必ずあるわけで。あえてあれは微妙に変わっていったというか、変えたというか。多分、そこら辺の意図があるのだろうなと思います。これも同じで、能管なんかは種類が5種類くらいしかありませんが、篠笛は少しの違いで20数曲あったりするので、それが消えてしまっただけではいけない。残さないといけないということで、たまたま文化庁の補助事業として本当に大掛かりに補助がいただけたものだから、それを13町内録画して配りましたが、これを作る際には議論があって、これを残すことはもちろん大事、価値が消えることを防ぐことは大事で、子どもたちも、大人たちも、若い人たちもこれを見ればきっちり伝えていけるという議論がある一方で、それがすべてだということになってしまうとそこから先が、進化することができないという議論があるものだから、そこをどう捉えるか。というところもやっぱり議論が分かれるところであって、結論を何度も言いますが、今の時代の一番のものをやっぱり残しておくということが大前提にある。それについては、いろんな祭のような有名なものもありますけれど、委員の皆さんが言われた知らないうちに消えてしまったというような、なくならないような対策だけはとっていくべきではないかなと思います。以上です。</p>
山田市長	<p>はい。ありがとうございます。 制限時間が来るので、いったん区切って、また再入場してください。</p>

〈 休 憩 〉	
山田市長	再開いたします。小倉さんの発言から再開したいと思いますので、小倉さんよろしくをお願いいたします。
小倉委員	<p>私は歴史が苦手というか、嫌いでしたが、そういう者の観点から言うと、私は広島で育って、歴史の人物の中で一番有名で、一番強かったのは毛利元就だと思っています。やはりそれは地域性で、毛利元就のことを、子どもの頃からたくさん話を聞いていたから毛利元就がすべてだと思っていました。そこで、犬山の子どもたちは、いろんな歴史上の人物がこの地で昔いろんなことがあったことが、結びつきやすい、良い環境の中にいると思うのですけれど、それが昔の勉強というのではなくて、もっともっと身近に感じられるような勉強の仕方を、教科書だけではなく、していける良い環境にある子どもたちだと思うので、是非、その解釈だったり、背景だったり、小ネタじゃないけれど、そういう話がしていけたらいいなと教育現場では思います。名古屋の子どもたちはやっぱり三英傑のことが大好きで、奥さんは誰でとか、そういう小ネタをすごく知っている。それは学校で先生が好きな人を話して、それをみんなが継いでいくということがあって。そんなふうに犬山の話がたくさんできたら良いなと思います。子どもレベルの解釈本だったり、時代背景が分かるものができたら良いなと思いました。</p> <p>あと、観光のお仕事を去年1年やらせていただいて、企画広報課の観光のアンケートを見ている中で、犬山の情報をどうやって得ているかという項目があって、その中で一番情報として得るのがやっぱりネットであると。若い人がそうである、ではなくて、年齢の高い50代の人、60代の人たちもネットで犬山の情報を得ているというデータが出ていました。だから、今からはネットで見られる人が多いので、そこにどれだけ情報をたくさん落とししていけるか。それも魅力的な表現、硬い文章ではなく、もっとかみ砕いたところで、もっといろんなものが続けて、ここに行ったら次はここへ行くと繋がっているとか、そういう横だったり時代の流れの縦だったり、それを結び付けてどんどんセットで掘っていくような見せ方が必要かなと思いました。アンケートの中でもう一つ、「犬山にまた行きたいですか」という質問の中で、「これを見たからもう十分」、「1回見たからもう十分だ」という結果が多かったと思います。また来たいと言わせるような、そんな見せ方ができたら良いなと思いました。</p> <p>犬山にいる子どもたちに対しての文化財の周知だったり、守り方というか次に繋げていく気持ちを、小さいときに築いていった方が良いなというのと、あと、日本人に対してのアピールの仕方、外国人に対してのアピールの仕方は、やはりターゲットを絞って見せ方を考えていかないといけないなと思いました。</p> <p>スイスから来た人で、「奈良を紹介して欲しい」という人がいて、一緒に奈良に行ったことがあります。が、「なぜ京都ではなくて奈良なの？」と聞いたときに、スイスでは奈良の情報の方がたくさん出ていて、京都の情報が半分しかありませんでした。でも見て回るのは、奈良より京都ではないのかなと思ったのですけれど、やはりそういうふうな見せ方で、奈良はすごい所だと言っていたので、やはり見せ方は大事だということを去年勉強しました。</p> <p>子どもたちに「これを守りたい」と思わせるような、そんな導きが必要かなと思いました。以上です。</p>
山田市長	<p>はい。一回りしました。</p> <p>皆さんの意見に対して、私の方から思いをお話しますが、皆さんに総じて犬山の文化財というのはいろいろ素晴らしいものがあって、これを活かしていこうとか、</p>

	<p>次に継承していこう、どうやって見えるようにしていこうとか、そういうところに共通の認識があったのかなと思います。皆さんも子どもさんへいろんな文化財を知ってもらい、体験してもらいということをおっしゃられた人もいますけれど、私も、大人ももちろんですけど、子どもたちに、犬山の郷土の歴史であったり、文化財であったり、知ってもらいこともさることながら、体験してもらったりすることが大切だと思います。具体例で申し上げて良いのか少し分かりませんが、私も子どもの頃は尾張富士の石上げ祭に参加して、小さいときは「どうして暑いときに、大変な思いしてこんなことやっているんだ」って思いました。でも当時、頂上にかき氷の屋台があって、頂上で食べたかき氷というのは本当においしくて、すごくインパクトがありました。大人になると石上げ祭が好きで、みんなから大変だと言われながら、自分で仕切ってお祭りをやったりしていて、ただ、私の子どもの頃の体験というものは、実今の子どもたちになかなかなくなってきているということが現実です。実際、子ども会そのものの活動もありますが、危ないとか熱中症だとかいろんな理由があって、石上げ祭に参加する子どもたちは減っているというのが現状なので、石上げ祭だけではないのですが、子どもたちが体験する機会を少しでも増やしていけると良いなど。現場では体験の機会を作ってもらっていることは間違いないので、ない訳ではないのですけれど。今度、東之宮古墳が整備されますので、そういうものを是非、子どもたちにも知ってもらいたいし、活用してもらいたい。からくり館もリニューアルして一本当はこの春オープンする予定だったんですけど、コロナの影響でまだオープンできていないんですけど、こういうものも、犬山地区の子どもたちだけではなくて、幅広くからくりモノづくりの文化を知っていただくということも大事です。いずれにしてもそういうものも体験したり、学んだり、知ったりということ、地区にあまり拘らず、幅広く展開していけると良いと思います。</p> <p>それから、私も同じ感覚ですが、見せ方という話がありました。これから情報技術もどんどん進んで、もちろん紙ベースの情報も大事ですが、ネットの情報も、今は動画であったり、ドローンの技術も進んでいますので、映像の仕立て方もかつての動画とは全く違う見せ方ができるので、同じものを見せるにしても、見せ方によって、興味のある見せ方というものが違ってくるので、そのテクニックが、やはり工夫が必要だなどと思います。実はいつも言うのですが、文化財に限らず教育委員会の所管事項全般にわたって見せ方というのは重要だと思います。もちろん、ネットや紙だけで見せるのではなくて、実際の直接の触れ合いだとか、体験というのは基本ではありますが、見せ方というものは非常に重要なので、そこは市長部局も教育委員会とも上手く連携して工夫できるように、一緒になって取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>私としては以上です。</p> <p>議題1点目、2点目一回りしましたので、教育長に総合的にご意見を頂きたいと思っています。</p>
滝教育長	<p>いろいろなご意見をいただきまして、ありがとうございました。</p> <p>大きく2点ありました。1点目は、コロナの関係でありますけれど、私は教育委員会という組織を無視して決定をしたということは決してありません。そのように思ってもらってはならないと思いますけれど。ただし、教育長の暴走というものを監視するのも教育委員さんの役割だと思います。今回、コロナに関わって休業措置あるいは学校の子どもたちにどのように学習を提供していくかということについて、一番大事にしたかったのは学校現場の意見であります。従いまして、休業措</p>

	<p>置をとっていく段階で、最終的には市の対策本部会議で決定していくわけですが、その前には教育委員さんにも相談を申し上げることもありますし、その前の段階で、常に校長会―校長会は、この4月、5月で1年分、全部開いてしまったのではないかという回数を持ったわけですが、内容によっては教育委員会でご決定をいただくこともあるでしょうし、中には教育委員会としての意思決定と言いますか、決定ではなくて、意思はこういうことで、最終的には市の対策本部で決定をいただくこともあったわけですが、教育委員さんがおっしゃっているのは、事前であれ事後であれ、情報共有をして欲しいというような内容が中心ではなかったかなと思いましたので、それ以降はどんな小さなことも、奥村委員を通じて、委員さん方にメール配信をしていただくようお願いをしたわけです。今後どのようなことが起こるか分かりませんが、その内容によっては、臨時で教育委員会を開かせていただくこともあるでしょうし、ご意見をお聞きして、最終的に市で判断をしていただくこともあると思いますけれども、教育委員会という組織ももう少し大事にした動きをしていく必要があったなと反省をいたしました。よろしくお願いいたします。</p> <p>2点目の文化財の関係でありますけれども、本当に犬山市は、市内全域に有形、無形の文化財が本当に多数あるところでございます。これは他市町の人にとっては本当に羨ましいことだと思います。ただ、他市町から見ると羨ましいわけですが、実際にその中にいますと、非常にプレッシャーを感じることがあります。今あるものを守って、次世代にそれを引き継いでいかないといけないという責任もあるわけですが、文化財を守っていくということは、お金も、手間も、時間もかかるわけです。これは非常に大変なことで、単なる保存でお金を使うだけではなくて、今後はいかに活用を図っていくかを考えていかないといけない時代ではないかと思っています。市内のいろんな文化財ではありますが、これは犬山市だけではなくて、愛知県、あるいは日本、世界の財産だとも思っていますので、とにかくみんなでこれを守っていくと。そして次世代に上手に引き継いでいく。それによって誰からも愛される犬山、そうした犬山のまちづくりをこれから進めていけたらなど。そのためのお手伝いをしていけたらなどと思っています。以上です。</p>
山田市長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>2点目の文化財の保存・活用についてというのは、これで一回りいたしましたので、皆さん特によろしいですか。追加して何か発言は。よろしいですか。</p> <p>では、森先生の方から何かお感じになられた点があればお願いします。</p>
森校長	<p>子どもたちを文化の継承者として位置付けるということは、当然のことだと思うのですが、子どもにとっての文化とは何なのかという点が大切です。文化があつての文化財だと思うので、「文化財とは何なんだろう」というアプローチが必要になってくるのではないかなと。今あるものを今あるように残していくということも大事なのですが、いずれそれはなくなっていくものかもしれない。そういう視点を忘れないようにしながら、新たな文化、文化財を補充していかなければいけない。そこが、「子どもたちにとっての文化は何か。文化財は何か。」という視点から、その都度、補充をしていかないと、非常に高いブランド価値を犬山は持っていると思うので、それを守るのが難しくなってくるのかなと思います。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>新たな文化というのは大事な視点ですね。あるものだけではなく新しい今から始まる文化の創造というのも、非常に重要な営みですので、今後もそういった観点を是非取り入れていきたいと思っています。</p>

	<p>はい。議題としては、以上となります。</p> <p>続いて、4の自由討議に移らせていただきたいと思います。皆さんの方から何かありますでしょうか。</p> <p>堀委員。</p>
堀委員 [オンライン]	<p>はい、今ここで言っているのか分からないのですが、夏休みを減らして登校するという話になっていますよねーもちろん、どこもそうなのですが。やはり心配は熱中症です。テレビで尾木ママという人が、「東京で20分も歩く子がいるんですよ。この子たちのために何か対策を。」と言われていましたが、犬山の子は一時間近くも歩きます。そういうものの対策として、スクールバスとかを考えてらっしゃるのかということをお聞きしたいと思います。</p>
山田市長	<p>スクールバスというと、相当の規模の展開をしないと、一部の学校だけではないので、どのくらいの距離のところを、どのくらいカバーしていくのかという線引きも必要ですし、そうすると相当の規模の対応になってくるので、現時点で、そういうスクールバスということは想定はしていませんし、教育長ともそういう意見交換はしていません。ただ、県内の他自治体と比較すると、犬山に関しては夏休みの期間をよそよりも少し長くとっているのかなと思っています。それはおそらく子どもの通学等も考慮して、設定されたのではないかなと思っています。もちろん、そうは言っても、7月の後半、8月の後半というのは、暑い中登校するという状況がございいますので、対策というと、子どもの健康管理、それから何かそこで急に体調不良が起きた場合は、速やかにフォローアップしていきなり、そういった形が今の対応になるのかなと思っています。ちょっとスクールバスという形はまだ想定していません。</p>
堀委員 [オンライン]	<p>分かりました。市民の方からいろいろ意見をいただくことがあるので、お聞きしてみました。</p>
滝教育長	<p>これに関して定例教では、8月1日から8月7日までとお話をさせていただきましたが、その中で、高木委員でしたよね、「暑い時期に良いのか」というご意見がありましたので、少しでもそういったリスクを減らせるように、夏休みを少しまた余分にとるようにしたという状況です。また、休み中の登下校については、どんな状況がくるのか分かりませんが、今年の夏も暑いという予想がされていますが、暑さの状況によっては、夏休みは休んで別の機会に授業日を設けるということも考えとしてはあります。その辺り、子どもたちの健康、安全を第一に考えて対応を考えていきたいなと思っています。</p>
山田市長	<p>他によろしいですか。自由討議ですので。なんでも自由です。</p> <p>はい、奥村委員。</p>
奥村委員 [オンライン]	<p>コロナに関係するのかもしれませんが、総務省から出ているGIGAスクール構想について。今後3ヶ年という計画で進むものが今年度ということでもかなり前倒しになったので、熟考する間もなくすぐにスタートということもありますが、市側としてGIGAスクール構想について、何かしら犬山市独自の考えがあるのでしょうか。ハードにつきましては、丹葉地区で合わせてという話もありますが、犬山市側から声を投げかけて、もう少し他の地区と違う何かをしようとか、そういうものがあるのであれば。急遽、進んだ話だと思いますので、なかなかすぐには難しいとは思いますが、そういったものがもしあれば教えていただきたいと思います。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。実は後程、私から問題提起をしようと思っていたところですので、奥村委員からその話が出ましたから、申し上げたいと思います。</p>



	<p>まず何か考えているかということですが、既に私から、教育委員会だけではなくて全部署にボールを投げています。全部署になぜ投げたかというのは後程、また申し上げます。今回の子ども1人に1台端末を配るとするのは、決してその情報機器を配ることが目的となつてはいけないと思います。これはあくまでも手段です。昨年、安倍総理から1人1台の方針が出されたときに、すぐに私は教育長に話をしたのですが、これは学習の質を高める手段ですので、まず一つは現場がきちっとこれを活かせるように、これを活かすための展開の仕方、これを現場できちっと準備してくださいということ。</p> <p>それから、二つ目は、情報機器が入ることによって、これは手段ですから、「授業が分かりやすくなった」、あるいは「授業が楽しくなった」、こういう子どもたちの成果がどれくらい上がっていくのかの検証です。</p> <p>それから三つ目が、犬山は感性を豊かにしていくという基本的な理念があります。国語力日本一というのがありますが、そういった犬山の基本方針というのは、必ずぶれないように、という三つを申し上げました。これがまず学校としての基本だと、これが私の認識です。</p> <p>それから、莫大な予算を投入して、学校に1人1台端末を入れていくので、学校の中だけの話で終わらせるのはもったいないと思います。ですので、学習の質を向上させるだけではなくて、子どもたちの生活の質、それから社会とのつながり、セキュリティというのは大事ですけれども、セキュリティをきちっと踏まえ上で、子どもたちの学習以外の生活の質であったり、社会との繋がりをきちっと構築していくためのそういうコンテンツを端末の中に盛り込んでいったらどうか、ということを考えています。どんなコンテンツを入れたらいいのかということをもっとボールを投げたわけです。現場として必要となる物も想定できるでしょうし、他の部署でこういうものが子どもたちの端末にコンテンツとしてあると良いよねというもの、教育委員会以外の部署でもあるかもしれません。例えば、防犯だったり、防災だったり、あるいは子ども広報みたいなものができないかとか。他にもいろいろあるかもしれません。ですので、教育委員会として、こういうものをコンテンツに入れて欲しいというものだけではなくて、それ以外の部署で、こういうコンテンツを入れたらどうだというものを、しっかりこの機会に洗い出して、単なる端末が1人1台行くという事ではない、それ以上の効果を引き出したいと、既に検討指示をしているところです。</p> <p>奥村委員、よろしいですか。</p> <p>ですので、委員の皆さん、こんなコンテンツが入ると良いよねというのを、是非教育委員会の中でも議論していただいて言っていただければ、もちろん、全部皆さんのご希望に沿えるとは限りませんが、是非教育委員会の中でも、せつかく1人1台端末行きますので、中身の活用の仕方、学校現場での活用の仕方もそうですが、それ以外のコンテンツの活用も、皆さんから意見を出していただいて、可能なものは取り入れさせていただきたいと思いますので、皆さんで議論していただきたいと思います。</p> <p>他によろしいですか。何か自由討議があれば。特に無ければ、時間の関係もありますので、何かよろしいですか、自由討議。</p> <p>はい。では自由討議はここで閉めさせていただきます。</p> <p>その他について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (井出企画広報課長)	<p>その他として、次回の会議についてご案内させていただきます。時期は11月頃を予定しております。日時等は改めて調整させていただきますのでよろしくお願い</p>

	<p>いたします。先のことではありますので、議題等について、教育委員会の皆様も何かテーマとしてご提案がありましたら事務局までお知らせください。</p>
山田市長	<p>はい、では今その他の部分に事務局に説明をしていただきましたので、特になければその他はこれで終わらせていただきます。</p> <p>以上で本日の議題は終了となりました。</p> <p>本日は、こういったオンラインという形で、開催させていただきましたが、今後もしもいつ何が起きるか分かりませんので、状況に応じて、こういった形で開催することがあるかもしれませんので、その節は皆さんにご協力をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたしますと思います。</p> <p>それでは、本日の総合教育会議を閉会とさせていただきます。</p> <p>本日は、誠にありがとうございました。</p>
＜ 閉 会 ＞	